

## 【研修報告】

## 2018年度 国際看護学演習Ⅱ「フィリピン」参加報告

服部 智子\*

## 1. はじめに一演習参加目的一

日本赤十字広島看護大学では、「国際看護学演習Ⅱ」の授業でフィリピンへの研修を開催している。今回、日本赤十字社とフィリピン赤十字社との共同プロジェクトの実際を学び、異文化看護の現状の視察を目的に、演習へ参加した。本稿では、演習の概要と特に影響を受けた内容を報告する。

## 2. 演習スケジュール

演習日程は前後1日の日本・フィリピン間の移動日が設けられ、場所や内容は表1の通りであった。事前に演習目標に沿った事前学習を学生が行い、その内容の共有が行われた。

## 3. フィリピン赤十字社本社見学

フィリピン赤十字社（写真1）では、Secretary GeneralであるElizabeth S. Zavallaと、Deputy Secretary General for Centers for Health in Humanitarian ActionであるDr. Susan P. Mercadoから講義を受けた。フィリピン赤十字社の使命と活動についての説明の中でも、流行拡大が懸念されていた麻疹（measles）への対応を詳しく聞くことが出来た。

フィリピン保健省が、2019年1月26日の時点で、麻疹症例が数週間で増加しており、死亡例が70例となったことから、警報を発令していた。この背景と、フィリピン赤十字社が行っている拡大防止に向けて

表1 演習日程（移動日除く）

日程	場所	内容
3月3日	AM 復興住宅地 (旧スモーカーマウンテン)	①トンド地区バラングイ副村長からバラングイの歴史と現在の教育・雇用について説明を受ける ②スモーカーマウンテンで暮らす人々の環境を視察
	PM アヤラ博物館 アメリカ記念墓地	①フィリピンの歴史と文化を知る ②第二次世界大戦での戦死した米軍墓地の見学
3月4日	AM マザーテレサセンター	①日本人シスターから活動の実際と日本人看護師の道からシスターの道へ歩んだ経緯と思いを聞く ②ボランティア活動に参加し入居者の方々の様子を見学
	PM フィリピン赤十字社	①フィリピン赤十字社の活動についての講義 ②フィリピン赤十字社オペレーションセンターの見学・説明
3月5日	キリノ州へ移動	日本の陸軍病院跡地付近を通る
3月6日	AM アリシアの小学校	①日本赤十字社との共同プロジェクトで設置されたウォーターシステムの見学 ②地域ボランティアの活動の実際をボランティアの方々から直接話を聞く
	PM キリノ州立病院 キリノ支部	①フィリピンの看護学生とチームでのディスカッション ②病院内施設見学(必ず家族が付き添いながらの治療の実際) ③キリノ支部での活動の実際と日本赤十字社との共同プロジェクトの現状についての講義
3月7日	AM キリノ州ヘルステーション	ナグティブナン群バラングイでのヘルステーションの現状を見学
	PM キリノ州小学校	WASHプロジェクトの現状を見学
3月8日	マニラへ移動	バリテ峠に立ち寄り日本軍の慰霊碑を見学
3月9日	AM 透析センター	以前フィリピン赤十字社であり現在透析センターと血液センターである施設の見学と説明
	PM サンチャゴ要塞等	フィリピンの歴史と文化の視察

\* 日本赤十字広島看護大学



写真1 フィリピン赤十字本社

の取り組みとして、隔離に用いるテントの設置や、各地に約440万人とされる予防接種が必要な子どもへの予防接種を順次実施している状況が分かった。

フィリピン赤十字社は、ソーシャルネットワークサービスを様々活用し、国民全体の健康生活に関し必要な情報を、迅速に発信する機関でもある。フィリピン赤十字本社のおペレーションセンターでは、情報を集約する機関として24時間台風等の天候の状況の変化を捉え、災害が起こる可能性や災害が起こった地域の特長、救援の状況を監視するシステムがあった。地域による麻疹症例数の変化をホワイトボードに一覧で記入し、日々更新しフィリピンの国全体の病気の流行や災害の現状を集約することで、地域の状況に応じた対応となっていた。

#### 4. 日本赤十字社との共同事業からの学び

フィリピン赤十字社と日本赤十字社との共同プロジェクトとして、地域住民に対する保健衛生についての健康教育や衛生設備の整備を行っている現状を視察した。フィリピンのキリノ州（首都マニラから



写真2 キリノ支部

北東に375km離れた山岳地帯)のフィリピン赤十字キリノ支部(写真2)とバランガイ(村)の見学を行った。

マニラ中心部とは大きく異なり、交通が発達していないことから、吊り橋や舗装されていない道を経ているバランガイ(村)での小さなヘルスステーションの役割は非常に大きく、その地域の人々の支えとなっていた。

ウォータープロジェクトの現状を学ぶことで、地元のボランティアの育成の重要性と、地域の健康はボランティアの方々が担っており、その力の大きさや役割を担うことでの誇りが感じられた。フィリピン赤十字社のスタッフとボランティアの方々との信頼関係のもと、意欲の維持ややりがいを感じられているのだと、ボランティアの方々との話から分かった。

#### 5. 貧困生活と健康

フィリピンの首都マニラ市トンド地区のバランガイ(村)を訪問した。スモーキーマウンテンでの健康障害としては、煙の吸入が原因となり上気道炎の発症やゴミ拾いで破傷風等がある。近年、着実に罹患率は減少しているが罹患率ゼロにはならない現状がある。スモーキーマウンテンを埋め立ててマンションやヘルスセンターを建て、子ども達の教育・雇用に力を注いでいるが、小さいゴミの山はまだある。

実際に、スモーキーマウンテンを歩く中では土煙の舞う中にいくつもの住居が点在し(写真3)、そこに暮らす人々の暮らしを見学することができた。日曜日であり、子ども達が外に集まり勉強をしている風景がある一方で、ゴミの自然発火(写真4)から針金等を採取する人の姿もあり、現在も多くの人々にとってゴミが収入源となっている側面を知ることとなった。



写真3 暮らす人々の住居



写真4 ゴミからの自然発火

#### 4. マザーテレサセンター

「子どもたちの家」と「死を待つ人の家」があり、「死を待つ人の家」への訪問であった。入居している方々にシスターやボランティアの方々は、常に手や身体に触れ笑顔で語りかけていた。触れる行為は、愛されていることを伝える行為であると説明を受け、身体に語りかけるとともに心に語りかける様子を見学することが出来た。

日本人シスターから、マザーテレサの豊かな人と貧しい人を同じように愛するという精神をもとに、様々な活動を行っている概要の説明があった。施設での活動に留まらず自ら出かけ、刑務所や家庭訪問を行って地域の人々に寄り添う活動の実際を知ることが出来た。施設内で死を迎える人々は、祈りの中で、安らかに愛を感じながら笑顔で亡くなる方々が多いという実際を学んだ。シスターが実践している、人道に基づいた行為と慈愛の精神の具現化を目の当たりにする中で、私は改めて看護者として人の温もりのある看護実践の重要性を再考することとなった。

#### 5. 戦争でのフィリピンにおける日本人看護婦

キリノ州への往路において、現地ガイドのVERGIEさんから第二次世界大戦中フィリピンに赴任していた日本人看護婦を、戦後陸軍病院に案内した際の話聞く機会を得た。当時フィリピンで陸軍病院に従事していた日本人看護婦の方々は、過酷な状況下においても、看護婦としての誇りを持ちつつ戦後もなお心に消えることのない苦しみを抱え、死者を思い涙が溢れ出ていたと知った。特に印象的であったのは、戦時中やむを得ずフィリピンで死亡した日本人医師や日本人看護婦を埋めた場所を、約20年経過してもなお鮮明に記憶していた事実である。映像や書籍から感じとる以上に、現地で当時の看護活動を聞くことで、同じ日本の看護師とし忘れてはいけない歴史が永続して存在することを実感した。

#### 謝 辞

演習へは、平成30年度日本赤十字広島看護大学海外出張旅費助成金を受けて参加致しました。このような貴重な機会を与えて下さり、ありがとうございます。また、授業担当教員の藤井知美先生と渡邊智恵先生には、海外での演習における教員の責務と、目標到達に向けての学生への関わり方を学ばせて頂き深く感謝致します。そして、フィリピン赤十字社の皆様はじめ絶やすことのない笑顔で快く見学させて下さいました現地の皆様に、心より御礼申し上げます。

